

「そしりの回復 それは神様との関係の回復」

ヨシュア5:1~12

はじめに

ある会議がもたれました。世界の多くの宗教者達が集まり、各宗教の事について学ぶ時がありました。宗教学の教授達が集まってキリスト教が他の宗教と何が違うのか研究と議論をしました。奇跡が起きる宗教は沢山あります。そこで、ナルニア国物語を書いた著者が言いました。キリスト教と世の中の宗教の違いは恵みですと言いました。多くの宗教はギブアンドテイクであり、そこには色々な修行や哲学があり、鍛錬が必要なのです。キリスト教の聖書が教える事は一方的な恵みです。これが大きく違う事です。相手がどうであれ関係なく、人がどのような人生を生きてくようが関係なく、どんな失敗をしても関係なく、神様はあなたを愛してあなたに本来の道に行くために自らが犠牲になって自分の命をプレゼントしたという恵みです。そこで礼拝は私達が変わろうと決断する最大の神様のからの恵みです。

割礼とは覆いを取り除く

どうすれば右でもなく、左でもなく、最善を選べるのか。今回の聖書の記事はその様な記事です。目の前にエリコの大きな城壁があります。そこに、エジプトの民がカナンに入る神様との約束一つで入って、もとは自分達の物だからと言う事で買取ろうとしていました。すると、神様は兵士達に武器を整えなさい、鍛えなさい、軍隊を築きなさいと言われれば話しはわかりますが、ところが割礼を施せと言われました。ヨシュアは即聞き入れました。聖書は絶えず意味があります。割礼と言うのは覆いを取り除くという意味があります。覆いを取り除いて、内側に溜まった罪の根を取り除いて、今までぼんやり見ていたものをはっきり見えるようにするのです。新約聖書で割礼とは洗礼です。自分の人生の過去を全て捨てて水で流して新しく起き上がるという事が割礼の本質的な意味です。人間として生まれたアダムの子孫がその儀式をする事で過去の覆いをそしりを取り除いて新しく生きていく儀式です。

価値観のずれ

人は病むと考えるのです。人生の目の前で大きなエリコの城壁のような問題が起きた時なんで私がこんな目に遭うのだろうと思うのではなく、この問題の中でどう苦しむのか考える事ができます。私達が茨の道を進もうとしているなら、茨の道から出てこなければいけません。私達はずれています。間違った道を決断して苦しみの問題の中でうまくいかなかった時に考えるのです。誰でも苦しいのは嫌です。しかし、苦しみに遭う事は私達が道を外れて的を外して、繰り返してしまうのです。それが代々続いているのです。価値観のずれが問題なのです。価値観がずれているなら、価値観をメタノイア(戻る)すればいいのです。素直さが私達の中にはあります。ずれてもいいのですが戻ろうとする決断が必要です。ずれていることに気づくことが大事です。ずれているところだけ素直に聞けばいいのです。私達の人生は見なくてもいいものに影響を受けてしまっています。色々な出来事に右往左往させられて、小さな問題を気にして大事なことを考えないといけない時にどうでもいいものに人生を奪われている可能性が高いです。過去、人の言葉、周りからの評価、人生に起こる問題を神様は割礼によって取り除きました。彼らが割礼で7日間寝込んだ後に、エジプトで起こったそしりが取り除かれたと神様は言いました。

そしりとは、ギルガル→ころがす・立っている石の環 祭壇

今まであなたに張られているレッテルがあります。神様は問題が目の前にある時あなたがもう一度そこで痛みの中でも向き合って一対一であの人と向き合うときに私達がずれていた事に気づく時レッテルがそしりが取り除かれ、詩編23編に書かれているように慈しみと恵みが私を追いかけてくる、主は私の羊飼い、私は乏しいことはありません。となります。主はヨシュアに仰せられた。私はエジプトのそしりをあなた方から取り除いた。こう言って欲しい。それは勝つことでなくて、自分に負ける時に起こるのです。自分が正しいと思うときは上手くいかないのです。私達は研ぎあって管理していれば、駄目になることはないのです。研ぎあう事によって、キリストの身丈にまで成長すると聖書は教えています。だから、ころがさないければなりません。過去に貼られていたレッテルを置いて、12の石を立ち上げて毎回戦いに行くたびにそこに集まって原点回帰をしました。私たちはへりくだって跪いてイエスを見上げるときに共にいることができるのです。

問題が起きた時エリコの城壁を前に

過去の覆いを取り去りましょう。問題が自分の前にエリコの城壁のように立ちはだかるとき、いかに過去のやり方をリニューアルできるかです。その為に繰り返し、決めたのに途中で辞めてしまう生き方を辞めなくてははいけません。神様の前に決断して過去の覆いを取り去る為に痛みを伴いますが、やるべきことをやらなければいけません。

過ぎ越しの体験

エジプトの民が裂けた海を渡った時、主の力が自分たちの民族を過ぎ去ったことを喜ぶ祭りです。感謝することを覚えて次の世代に教えずにはなりません。私達がすることは批判者を育てるのではなく、次の世代に感謝を教えることです。自分に向き合ってくれることや自分の為に何かをしてくれることや問題が解決することに感謝を教えることです。

収穫の体験

与えられる事は美しいのですが、与えられるという事は怖いことです。恵みは流すものだからです。神様は恵みとしてあなたを与えた。だから、教会で恵みを流すことを覚えなさい。と伝えています。5つのパンと2匹の魚を持ったなら、自分の物とせず誰かに与えてあげなさい。すると、12の籠がいっぱいになりました。私達の人生は収穫の体験をすることで与えていかなければいけません。

最後に

私達は人生で自分の歩みが正しいと勘違いしてしまうことが沢山あります。今日という日は神様の前に素直になりたいと願います。あなたを愛し、あなたの為に命をかけて死んだ人がいるのに、それでも私達は心を頑なにして過去のうるさい虫に心を奪われて間違った決断を続けるのが正しいのでしょうか。価値観がずれているのです。今しなければいけないことは過去の覆いを脱ぎ捨て、置くことです。レッテルを捨て去ることです。もし、ずれているのなら聞くことです。そして、それが分かったなら素直に戻ることです。人を変えることを捨て、自分を変えて頂くことを素直に神様の前に出て祈りましょう。逆風の中を歩むのではなく、神様と共に追い風の中、慈しみと恵が追ってくる人生となりますように！

(要約者:富岡美千男)

(2024年10月13日)